

## は し が き

国立教育政策研究所では、所の研究成果を教育現場をはじめとして広く普及し、教育指導法の改善や教員の資質向上などに役立てていただくという趣旨により、平成2年より教育研究公開シンポジウムを開催している。

今回の第23回教育研究公開シンポジウムは、「国際学力調査に見る我が国の学力の現状と指導法の改善」というテーマにより、東京で開催した。

当研究所は、平成16年12月に、OECDによる「生徒の学習到達度調査（PISA 2003）」と国際教育到達度評価学会（IEA）による「国際数学・理科教育動向調査の2003年調査（TIMSS2003）」の結果を公表した。

本シンポジウムは、これらの国際学力調査に直接関わった研究官が結果の概要を報告し、それをもとに、日本の学力の現状とこれからの指導のあり方について議論したものである。また、基調講演を、元文部大臣の有馬朗人（財）日本科学技術振興財団会長にお願いした。

当日は、全国から180名もの教育関係者が集まった。

本報告書は、このシンポジウムにおける基調講演、基調報告および討論の内容をまとめたものである。学校での指導などに生かしていただければ幸いである。

平成17年3月

国立教育政策研究所 所長  
矢野 重典

# 目次

はしがき

【あいさつ】..... 7

矢野重典（国立教育政策研究所 所長）

【基調講演】.....11

「日本人の算数・数学と理科の実力と問題点」

有馬朗人（財団法人日本科学技術振興財団会長・元文部大臣）

【基調報告】.....45

「我が国の学力の現状　TIMSS調査、PISA調査、教育課程実施状況調査より」

1．算数・数学について

瀬沼花子（国立教育政策研究所 教育課程研究センター基礎研究部 総括研究官）

2．理科および読解力について

猿田祐嗣（国立教育政策研究所 教育課程研究センター基礎研究部 総括研究官）

【パネルディスカッション】..... 61

「我が国の学力の現状と指導法の改善」

コーディネーター 小川正賢（神戸大学教授・日本科学教育学会会長）

シンポジスト 吉川成夫（国立教育政策研究所 教育課程研究センター研究開発部 教育課程調査官）

清原洋一（国立教育政策研究所 教育課程研究センター研究開発部 教育課程調査官）

島田 功（成城学園初等学校教諭）

木村幸泰（愛知県刈谷市立東刈谷小学校教諭）

プログラム

第23回

【教育研究公開シンポジウム】

国際学力調査に見る  
我が国の学力の現状と  
指導法の改善